

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K02976

研究課題名(和文) 我が国における「インクルーシブ教育学」の教員養成課程でのカリキュラム開発

研究課題名(英文) Inclusive Pedagogy Across the Curriculum in Higher Education

研究代表者

荒巻 恵子 (ARAMAKI, Keiko)

帝京大学・公私立大学の部局等・教授

研究者番号：80743070

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、高等教育機関での教員養成課程における「インクルーシブ教育学」という新しい分野のカリキュラムを開発することを目的として、高等教育機関の教員養成課程において、未開である「インクルーシブ教育学」について、授業の事例研究を行い、教師の継続的専門性開発の理論研究の枠組みからの分析と検討を行った。本研究の独自性と創造性として、「インクルーシブ教育学」という新たな分野の流布と教員養成課程におけるカリキュラム開発を掲げた。その開発においては『継続的専門性開発』のアプローチにより、カリキュラム開発を行い、テキストの開発とその効果測定を行った。成果を学会等で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「インクルーシブ教育学」は、実践に基づくため、教育課程の中での授業デザイン、指導法といった教師の専門性が問われる。「インクルーシブ教育学」は、人権・経済・障害・環境の4つのインクルージョンの局面から、これまで排斥されてきた人々を万人のための教育として、一人ひとりの幸福度を高めるための教育実践が必要とされた。また、教師の専門性開発のための方法論である継続的専門性開発の方法論を用いることにより、カリキュラムに基づく教授法や学習方略に焦点を当て、研究指導を促進し、学生を巻き込むことまでも目指した高等教育セクターにおける専門性開発の理論として本研究では、その成果を発表できた。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to develop a curriculum for the emerging field of "Inclusive Education" within teacher training programs at higher education institutions. To accomplish this, the study conducted case studies of classroom practices and analyzed and examined the framework of Continuing Professional Development (CPD) for teachers based on theoretical research. The research aimed to promote the dissemination of the new field of "Inclusive Education" and curriculum development within teacher training programs, emphasizing its uniqueness and creativity. The curriculum development was carried out using an approach of CPD, and the study also developed instructional materials and evaluated their effectiveness. The findings were presented at academic conferences and other scholarly events.

研究分野：教育学

キーワード：インクルーシブ教育学 教師教育 カリキュラム開発 専門性開発 教育対話学 高等教育 データサイエンス インクルージョン

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国のインクルーシブ教育が障害児教育のみに偏重していることへの危惧

我が国においては「インクルーシブ教育が特別支援教育である」という偏重した概念を早期に払拭し、全ての子どもたちを包摂する「インクルーシブ教育学」の流布と多様性社会に向けた教育実践とカリキュラム研究を行うことが急務であった。

「インクルーシブ教育学」という新たな学問分野については、これまで英国を研究フィールドにして多様性社会におけるインクルージョンへの視座をテーマに2つのプロジェクトを掲げてきた。一つは、2017年から海外大学連携による多様性社会における新しい学問分野である「インクルーシブ教育学」に関する理論研究を行い、現況を明らかにした。二つは、「インクルーシブ教育学」における実践研究を高等教育機関における教師の継続的専門性開発研究として行ってきた。近年ではカリキュラム開発に比重を置いて進めている。

(2) 教員養成課程で活用する「インクルーシブ教育学」テキスト開発の効果測定への課題

多様性社会での教育に対応するカリキュラムの開発に向けては、その背景にあるインクルーシブ社会やインクルージョンなどの基礎的概念の理解が必要であるにも関わらず、現在適したテキストがないことが最も大きな課題である。そこで、『インクルージョンとは何か？多様性社会での教育を考える』（2019、日本標準発行）を刊行し、インクルーシブ教育学についての理論の紹介など、教員養成課程で活用するテキストの開発を行った。しかし、効果測定には至っていない課題があった。

2. 研究の目的

教員養成課程におけるインクルーシブ教育学のカリキュラムづくり

本研究は、高等教育機関での教員養成課程における「インクルーシブ教育学」という新しい分野のカリキュラムを開発することを目的として、高等教育機関の教員養成課程において、未開である「インクルーシブ教育学」について、授業の事例研究を行い、教師の継続的専門性開発の理論研究の枠組みからの分析と検討を行う。

本研究の独自性と創造性は、「インクルーシブ教育学」という新たな分野の流布と教員養成課程におけるカリキュラム開発である。その開発においては以下の2項目をあげる。

項目1：インクルーシブ教育学と『専門性指標』

高度で実践的な教師の専門性開発について、海外の高等教育が取り組むSoTL概念にある教授法・事例研究・理論と実践の統合・実践への応用の4要素を、インクルーシブ教育学に位置づける。

項目2：『継続的専門性開発』のアプローチ

カリキュラム開発の具現化は、継続的専門性開発の8つのアプローチ（ケーススタディ、コンサルテーション、コーチング、実践のコミュニティ、レッスンスタディ、メンタリング、監督指導、テクニカルアシスタンス）の方法を、カリキュラムの中に位置づける。つまり、座学だけでない実践演習などが想定される。

3. 研究の方法

本研究は、第1段階から第4段階のフェーズをふみ、具体的な方法は図解に示す。

第1段階：質問紙調査によるインクルーシブ教育学のニーズを明らかにする

第2段階：カリキュラムのプロトタイプと評価方法の試作開発をおこなう

第3段階：開発したプロトタイプを機能分析によって改善、モデルの開発、評価方法を提案する

第4段階：高等教育機関への新カリキュラムのアウトリーチ、最終報告書作成をおこなう



4. 研究成果

本研究は、高等教育機関での教員養成課程における「インクルーシブ教育学」という新しい分野のカリキュラムを開発することを目的として、高等教育機関の教員養成課程において、未開である「インクルーシブ教育学」について、授業の事例研究を行い、教師の継続的専門性開発の理論研究の枠組みからの分析と検討を行った。本研究の独自性と創造性として、「インクルーシブ教育学」という新たな分野の流布と教員養成課程におけるカリキュラム開発を掲げた。その開発においては一つに、インクルーシブ教育学と『専門性指標』づくりを目指した。これは、高度で実践的な教師の専門性開発について、海外の高等教育が取り組むSoTL概念にある教授法・事例研究・理論と実践の統合・実践への応用の4要素を、「インクルーシブ教育学」に位置づけるためのものであった。二つは、『継続的専門性開発』のアプローチにより、カリキュラム開発を目指した。カリキュラム開発の具現化は、継続的専門性開発の8つのアプローチ（ケーススタディ、コンサルテーション、コーチング、実践のコミュニティ、レッスンスタディ、メンタリング、監督指導、テクニカルアシスタンス）の方法を、カリキュラムの中に位置づけ、座学だけでない実践演習などを行った。このうち、特に二つ目の『継続的専門性開発』のアプローチにより、カリキュラム開発を行い、テキストの開発とその効果測定を行った。成果を学会等で発表した。

<引用文献>

- 1) Operrti, R., Walker, Z., & Zhang, Y. (2014). "Inclusive education: From targeting groups and schools to achieving quality education as the core of EFA". In L Florian (Ed.), *The SAGE in the Handbook of Special Education*, pp.149-169, London, UK: SAGE.
- 2) Warnock Report (1978). *Special Educational Needs. Report of the Committee of Enquiry into the Education of Handicapped Children and Young People*. London: Her Majesty's Stationery Office.
- 3) Florian, L. (2015) *Inclusive Pedagogy: A transformative approach to individual differences but can it help reduce educational inequalities?* *Scottish Educational Review* 47(1), 5-14.
- 4) Florian, L., & Linklater, H. (2010). *Preparing Teachers for Inclusive Education: Using Inclusive Pedagogy to Enhance Teaching and Learning for All*. *Cambridge Journal of Education*, 40(4), 369-386. Florian, L., (2014). *Reimagining Special Education: Why New Approaches are Needed*. In L Florian (Ed.), *The SAGE in the Handbook of Special Education*, pp.9-22, London, UK: SAGE.
- 5) 荒巻恵子(2019)『インクルージョンとは何か？多様性社会での教育を考える』, 日本標準, 2019年.
- 6) 荒巻恵子, 村上みな子(2015)「インクルーシブ教育に向けた体育科指導法の検討 発達障害児・生徒のためのスポーツ・レクリエーションから」, 帝京大学大学院教職研究科年報 第10号, pp.69-84.
- 7) UNESCO. (2005). *Guidelines for inclusion: Ensuring access to education for all*. Paris, France: UNESCO.
- 8) 荒巻恵子, 三石初雄, 下田誠, 望月耕太(2018)「SoTLに向けた教員養成ならではのPDプログラムの検討：スカラシップ再考, BoyerモデルからDARTモデルまで」, 日本教育工学会研究報告集 18(2), pp.57-62.
- 9) 荒巻恵子(2019)「SoTL (Scholarship of Teaching and Learning) による継続的専門性開発の研究動向」, 『帝京大学高等教育開発センターフォーラム』第6号, pp.1-12.
- 10) Aramaki, K. (2019) "Professional Development among Universities of Education in Japan: Building Capacity in SoTL Activities", World Education Research Association Focal Meeting in Tokyo 10th Anniversary.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 荒巻恵子	4. 巻 12
2. 論文標題 インクルーシブ教育学におけるカリキュラム開発研究：教職課程における「データサイエンス入門」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 帝京大学大学院教職研究科年報	6. 最初と最後の頁 61-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒巻恵子	4. 巻 1
2. 論文標題 探究過程での対話における教師スキーム研究：- インクルーシブ教育学の対話的教育研究動向から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一般社団法人 日本教育工学会	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒巻恵子	4. 巻 1
2. 論文標題 教員と職員の専門性に関する調査データから探る実践性 項目反応理論による専門性ニーズのパラメータ推定の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教員養成開発連携機構HATO研修・交流支援プロジェクト『令和3年度年次報告書』	6. 最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ARAMAKI Keiko, SHIMODA Makoto, MOCHIZUKI Kota, MITSUISHI Hatsuo, MATSUDA Keiji	4. 巻 73
2. 論文標題 Professional Development Unique to University of Teacher Education: Case Study of the HATO Project	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Bulletin of Tokyo Gakugei University, Division of Comprehensive Educational Science	6. 最初と最後の頁 639-653
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 荒巻 恵子, 岸 学, 下田 誠, 望月 耕太	4. 巻 10
2. 論文標題 項目反応理論による専門性開発ニーズ尺度の項目母数と特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 帝京大学高等教育開発センターフォーラム = Forum of the Center for Teaching and Learning Teikyo University 10	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計16件 (うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 荒巻恵子 岸学
2. 発表標題 日本版教育対話分析のための教師スキーム開発
3. 学会等名 日本教師学学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 英国のインクルーシブ教育学のための教師スキーム開発研究 生徒の多様性課題に向けた対話的教育研究から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会, 筑波
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒巻恵子, HENNESSY Sara, KERSHNER Ruth, TRIGO-CLAPS Ana Laura, 司城紀代美, 池田彩乃, 楠見友輔
2. 発表標題 インクルーシブ教育学のための対話的教育の実践と課題 - 英国対話的教育研究の報告から日本での対話的教育の可能性 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会, 筑波
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 インクルージョンとは何か？
3. 学会等名 日本野外教育学会第24回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 荒巻恵子, 下田誠
2. 発表標題 教員と職員の専門性に関する調査データから探る実践性 - 教員養成における実践性とは何か
3. 学会等名 HATO研修・交流支援プロジェクトフォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 インクルーシブ教育学におけるカリキュラム開発 教員養成課程における実践的研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 英国のインクルーシブ教育学における専門職開発とカリキュラム開発
3. 学会等名 日本教師学学会第22回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 インクルーシブ教育学のための教育対話研究 「教育対話のためのガイドブック 教師編」開発の取組 から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子, 岸学
2. 発表標題 項目反応理論を用いた専門性開発へのニーズ尺度分析 – 教員養成大学の教職員に対する専門性開発ニーズ調査の再分析 –
3. 学会等名 日本教育工学会信州
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子, 司城紀代美, 池田彩乃, 楠見友輔, TRIGO-CLAPES Ana Laura, 香川奈緒美
2. 発表標題 インクルーシブ教育のための教育対話学による学際的越境
3. 学会等名 日本特殊教育学会第60回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 教師のための継続的専門性開発から共同実践性開発への研究動向
3. 学会等名 日本教師教育学会第32回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小林翔太, 荒巻 恵子, 柄澤 周, 石井 卓之
2. 発表標題 電子黒板の活用場面における教育対話研究
3. 学会等名 日本教育工学会2022年秋季全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子
2. 発表標題 パウロ・フレイレの対話学習理論と実践 謙虚さとは何かー
3. 学会等名 日本教育方法学会第58回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒巻恵子, TRIGO-CLAPES Ana Lauraほか
2. 発表標題 教育対話的アプローチがインクルーシブ教育に与える影響 インクルーシブ教育学の理論と実践ー
3. 学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荒巻恵子, 司城紀代美, Ruth Kershner, TRIGO-CLAPES Ana Laura, 梶見友輔, 香川奈緒美
2. 発表標題 対話的な実践によるインクルーシブな実践をめざして
3. 学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 荒巻恵子, 司城紀代美, 池田彩乃, TRIGO-CLAPES Ana Laura, 楠見友輔, 香川奈緒美
2. 発表標題 インクルーシブ 教育学 のための教育対話研究 2
3. 学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 日本教師教育学会 第10期国際研究交流部, 百合田真樹人, 矢野博之, 香川奈緒美, 金井香里, 森 久佳, 荒巻 恵子, 深見 俊崇	4. 発行年 2023年
2. 出版社 学文社	5. 総ページ数 192
3. 書名 ユネスコ・教育を再考するーグローバル時代の参照軸ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ヘネシー サラ (HENNESSY Sara)	ケンブリッジ大学・The Faculty of Education・Professor	
研究協力者	カーシュナー ルース (KERSHNER Ruth)	ケンブリッジ大学・The Faculty of Education・Associate Professor	
研究協力者	トリゴクラペス アナローラ (TRIGO CLAPES Ana Laura)	ケンブリッジ大学・The Faculty of Education・Researcher	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 国際シンポジウム「Practices and Issues of Dialogic Teaching in Inclusive Pedagogy」	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 国際シンポジウム「Transdisciplinary research addressing Educational Dialogue for inclusive education」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 国際シンポジウム「Towards Inclusive Pedagogy via Dialogic Practices」	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
英国	University of Cambridge, Camtree		